

二十歳のころ



TimeTree

Distance Today, Together Tomorrow

16期A班



iOS 版



Android 版

研究動機

昨今、プログラミング学習などの情報通信技術に関する教科が義務教育の中に導入されたことをきっかけに、その前線で働いている IT 企業の社長の方に取材をしたいと考えていました。そこで、二十歳のころの取材に行く企業やどのように二十歳のころを進めていくか、いつ集まってどこで話し合いをするかなどを決める際に、私たちの班では TimeTree というカレンダー共有アプリを使って日程調整をしていました。このアプリを使って集合し、どこの会社取材しに行くか悩んでいました。その時に、今こうして実際に使用している TimeTree というアプリはどのようにして開発されたのか、どんな人がどんな想いで作ったのか気になり、株式会社 TimeTree に取材に行くことに決めました。

会社概要

会社名 株式会社 Time Tree (Time Tree, Inc.)
設立 2014 年 9 月 1 日
従業員数 42人(2月19日時点)
資本金 1億6,350万
事業内容 カレンダーシェアアプリ「Time Tree」の企画・開発・運営
代表者 深川 泰斗
所在地 〒160-0023 東京都新宿区西新宿 6 丁目 6-3
新宿国際ビルディング新館 503

デジタルとアナログの比較

手帳

メリット

- ・実際に手で記入するため覚えやすい。
- ・自分スタイルの手帳が作れる。
- ・データではないので消える心配がない。

デメリット

- ・普段から持ち歩かないといけない。
- ・ペンとセットでないと機能しない。
- ・カバンから取り出しペンを持ち、両手がふさがる。

スマホ

メリット

- ・普段から必ず持ち歩くもの。
- ・クラウド経由でほかの端末でも見ることができる。
- ・入力が楽である。
- ・アプリによって便利な機能がある。

デメリット

- ・指一つで簡単にデータが消えてしまう。
- ・手書きではないので、予定を忘れてしまいやすい。
- ・自分好みにアレンジが効かない。

TimeTree の特徴

共有することを前提に作られたカレンダーです。

主要な機能を以下四点

- ・みんなの予定を一つにまとめる「グループカレンダー」
- ・日付未定の予定を保存しておく「キープ機能」
- ・カレンダー上の予定のところでそのメンバーたちとの「チャット機能」
- ・グループカレンダー内のタイムライン「フィード機能」

アプリ開発の背景

「予定って相手がいることがほとんどなのに、

どうして個人用のツールばかりなんだろう？」

そんな疑問から「予定管理を、共有するという前提で考え直してみ

よう」というコンセプトでサービスを考え始められた。

会社の特徴

会社独自の制度

・ニックネーム制

→社員同士が対等な関係で仕事をするためにニックネームを決め、それで呼び合うことで緊張感が解けリラックスした状態になるので創造性を高める。

・ストレングスファインダー

→社員の個々の力を把握し才能を分析するために行う。

ルール取っ払い

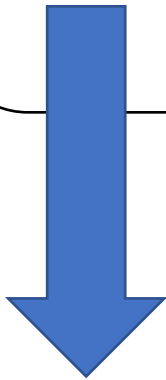
→働く時間を決めていない。スーパーフレックス制の導入、会社自体が 24 時間空いていて何時に出社してもよく、何時に退社しても良い。そして、在宅勤務かオフィスワークを自由に日によって選択し勤務することができる。

従業員構成

国籍: 多国籍(8 カ国 日本・アメリカ・フィンランド・ドイツ・オーストラリア・
チュニジア・ブルガリア)

エンジニア数: 22 名

その他部署: 20名(広報・経理・総務・人事・プランナー)



CEO 以外にも…

CCO

Chief Culture Design Officer アプリのデザイン開発

CFO

Chief Financial Officer 資金管理や調達

CTO

Chief Tsumami Officer 最高つまみ責任者

フレッドの二十歳のころ

経歴

1977 年生

2003 年 3 月 九州大学大学院比較社会文化学府卒業 専攻は社会学・文化人類学

2006 年 4 月ー2014 年 8 月 ヤフー株式会社

2012 年 11 月ー2014 年 8 月 株式会社カカオジャパン

2014 年 9 月ー 株式会社 JUBILEE WORKS

(2019 年 9 月から株式会社 Time Tree に社名変更)

学生時代

フレッドの 20 歳のころは大学にはほとんど行かず、塾講師や清掃員、ビデオショップのアルバイトと路上ライブに没頭する日々を過ごしていた。その結果、留年することになってしまう。その後、大学三年時に中国に 2 か月間渡航。そこで、食事を少し残すことが礼儀ということと同じ苗字同士で頼りあうという 2 点の文化を知りカルチャーショックを受ける。この、中国渡航を機に文化人類学の研究者になりたいと思い、九州大学大学院比較社会文化学府に進学。 学生時代に一番頑張ったことは、卒論でテーマは「アマチュアミュージシャンの戦術新しい音楽文化生産についての事例研究」で、普段から路上ライブをしていた駅で複数歌っている人がいたが、その歌う場所の決め方のルールを探し客数のカウントや曲名の調査に励み、充実した卒業論文を書くことができた。そして、その卒業論文が朝日新聞に掲載された。二十歳のころを振り返ると好きなことだけをとことん突き詰め始めるころになっている。

今に生かされていること

まず、学生時代のバンドではディレクションをしていたため、その人の得意分野を伸ばし適切なポジションに配置するという人事的なマネジメントに繋がる。また、音楽のイベント企画もしていたため、アプリの企画開発する際の構成の仕方やそれを仲間に共有する力が生かされている。

そして、中国への2か月間の渡航の際に感じたカルチャーショックが現在のカレンダー機能を作る際にユーザーの過ごしてきた文化やものの考え方、価値観を理解することに大きく影響している。

大学院時代に夢中になって取り組んだ卒論は、興味のあることに対して掘り下げ、その事例に対してとことん突き詰め実行する力になっている。

フレッドが私たちに伝えたいことは、いろいろなものを自分の目で見て感じ取ることと、自分が気になったことや興味のあることは深く掘り下げるという2点。

フレッドの今後の展望

世の中の予定管理を変え、昔を思い出せなくする。

今の私たちがガラケーを使っていた時を忘れてしまったように、

使っていて当たり前、なくてはならないと人々が感じるような

生活の一部になるサービスを提供していく。